

創立から133年!

大阪・児童福祉のさきがけ、博愛社の
歴史をたどる資料・研究書を刊行!

史料・博愛社

大阪児童福祉の先駆

博愛社の史的研究

【編】 室田保夫・今井小の実・高岡裕之・蜂谷俊隆・倉持史朗

A5判／上製／総480ページ

定価5,000円＋税

明治維新から遠くない一八九〇年に播州赤穂に始まり、
大阪淀川のほとりで展開された、児童保護事業・博愛社。

身寄りのない子どもたちのために、夜学校や里預け、
母子のための家、敗戦後は「戦災孤児」の支援などをおこなった。

一世紀を超える活動の歴史において、一時期は岡山孤児院
と提携し、関係者はUSAや中国でも施設を開設した。

膨大な貴重資料群をもとに積み重ねられた研究の集大成が

『大阪児童福祉の先駆 博愛社の史的研究』である。

創始者・小橋勝之助が刊行した機関誌『博愛雑誌』も同時刊行!

社会福祉史研究に必須の資料として二書を提供する。

復刻版

博愛雑誌

全1巻

A5判／上製／総304ページ

定価10,000円＋税



六花出版

知られざる博愛社の 実像を明らかにする

金子光一 ●東洋大学教授

本書『大阪児童福祉の先駆 博愛社の史的研
究』は、博愛社に関する総合的な研究の成果と
して高く評価できる研究書です。第1部の「博愛
社の中心人物」では、小橋勝之助、小橋実之助、
小橋カツエ、林歌子などを取り上げ、第2部の
「博愛社の事業」では、入社児童の概況、私立博
愛社普通学校、私立愛隣夜学校、鳴尾記念母の
家、「里預け」などを浮き彫りにし、第3部の「博
愛社史研究の周辺とその可能性」では、地域か
ら世界に展開された博愛社の活動等が明らかに
されています。各章では、『小橋勝之助日誌』『博
愛雑誌』をはじめとする第一次資料に基づき、多
面的かつ俯瞰的に博愛社の成り立ちや事業、さ
まざまな人々との関係性が描かれています。濃
尾地震の際に震災孤児収容所を設置したこと
で知られる博愛社ですが、これまで知られてい
なかった博愛社の実像を解明する研究書が世に問
われることを、社会福祉の歴史を学ぶ者の一人
として大変嬉しく思います。

(かねこ・こういち)

『大阪児童福祉の先駆 博愛社の史的研 究』はじめに」より

博愛社の歴史研究をめぐる 序 室田保夫

はじめに

本書は一九九〇（明治三三）年一月、播州赤穂に小橋勝之助によって創設された博愛社の歴史について、戦前を中心とする多角的に論じたものである。現在、博愛社は社会福祉法人として大阪市淀川区十三の地に児童養護施設、高齢者施設、幼稚園、こども園等を持つ総合施設として陣容を整えている。博愛社の隣にはW・M・ヴォーリスの設計になる白壁の端麗な聖・贖主教会の塔が聳え、堂々たる景観を呈している。博愛社は創設されて一三三年の歴史をもつ日本でも有数の伝統ある福祉施設である。しかし創設者小橋は九三年に三〇歳の若さで夭折する。その一年後、弟実之助や林歌子らは赤穂の小さな村から大阪府大仁村の阿波松之助の家に博愛社を移し、五年近



博愛社（現在の建物）

・1

内容 見本

くここに寓居し、苦勞に耐え博愛社の存続と発展を期した。そして九九（明治三二）年、現在の地に博愛社を移した。その後、この地で台風、大水、地震等の自然災害、とりわけアジア太平洋戦争末期の大阪大空襲、阪神・淡路大震災等々をくりげ、今に至っている。そして奇跡的に被災を免れた多くの史資料（以下、資料）が今日まで大切に保存されてきた。

我々は二〇〇一年頃から「博愛社史研究会」を立ち上げ、資料整理とその保存を主たる目的とし、〇七年からは文科省科学研究費の援助を受けつつ、研究にも少しずつシフトしてきた。博愛社の研究は漸く緒についたばかりであるが、戦前までの博愛社の歴史につき、今後の研究への一里塚として、博愛社に関する論文集という体裁でまとめるべく企図し、今回、上梓したのが本書である。博愛社史研究はまだ入り口にすぎなかった状況ではあるが、資料整理と保存に関わったメンバーを中心に、戦後を視野に入れながら、博愛社の創設前からおよそ半分の時期に相当する戦前までの歴史を中心に、今後の博愛社史研究を見据えまとめたものである。以下、本章において創設者の小橋勝之助が如何なる経緯のもとでキリスト者になったかを一瞥し、各章の内容を辿り、博愛社研究への視点と課題についてみていくことにする。

一 博愛社の創設と小橋勝之助

徳川幕藩体制の終焉と共に、新しく明治という時代が到来した。明治国家は欧米から新しい文明を学び、近代国家としての目標を掲げていった。しかしこの近代化に向けて日本社会は多くの課題、問題が噴出していくことになる。幕末から維新時の混乱、文明国家をめざしての維新改革、明治一〇年代には国会開設をめぐって各地で自由民権運動が展開される。明治国家は「殖産興業」「富国強兵」政策を進め、政治・経済・教育など国家に

・2



1911（明治44）年ごろの博愛社社員
教会前で、前列左から3人目・小橋カツ
エ、4人目が林歌子、後列左から3人目
が小橋勝之助



博愛社小学校教室授業風景



家庭（ホーム）の食事風景

関連 年表

年	事項
1890 （明治23）	兵庫県赤穂郡矢野村瓜生（現相生市）に小橋勝之助（26歳）が、キリスト教の精神にたつて、貧しい家庭の子どもたちを育む施設として博愛社を設立 機関誌『博愛雑誌』創刊
1891	博愛社、岡山孤児院と合同事業になる 『博愛雑誌』終刊
1892	林歌子、博愛社に加わる
1893	小橋勝之助永眠。弟の実之助（20歳）が後継
1894	大阪市外大仁村（現大阪市北区）、阿波松之助方に移転
1899	大阪府西成郡神津村（現在の淀川区十三）にある約4,000㎡の土地に新社屋完成（現在地） 社団法人組織に
1900	私立愛隣夜学校設立
1911	乳児の里子預けが盛んになる
1923	乳児園落成
1929 （昭和4）	鳴尾記念母の家、創設
1933	小橋実之助永眠。妻・小橋カツエが後継
1934	室戸台風により教会堂が全壊。翌年再建
1937	出征軍人遺家族のための母子ホーム開設
1946	林歌子永眠
1948	児童福祉法による養護施設に
1964	小橋カツエ永眠
1969	学校法人博愛社学園幼稚園開設
1970	博愛社保育園開設
1998	特別養護老人ホーム博愛の園・ケアハウスはくあい開設
2019 （令和1）	幼保連携型認定こども園「博愛社こども園」開設
2023	児童養護施設「博愛社いずみ」開設

復刻版『博愛雑誌』より

して永生を受しめ玉ふ其の愛や實に大なり然れども愛なき者は神を識ること能はず神は即ち愛なればなり
世間に親のなき子はど不幸なる者はなかる可し是れ親の如くに晝夜之れが爲に心を勞し之を慰め之を愛し之を養育するものなけれとなり然れども天に在ます父なる神の愛は肉に属する父母の愛の幾千倍なるや知らず萬物を我儕に與へ晝夜我儕を守り悲みある時は之を慰め困難の時は希望を與へ其の他病ある時も貧しき時も恒に安心と平和と喜樂を與へ玉ふ斯る愛に富み玉ふ神を敬みて足ることを知るは大なる利なりわれら何をも携へて世に來らず亦何をも携へて往くこと能はざるは明かなり然らば衣食あらむ之をもて足れりとし何事をも思ひ煩ふことなく嘯事ごとに祈禱をし懇求をし且

のうち何の誠か大なるイエス答けるは爾心を盡し精神を盡し意を盡し玉なる潮の神を愛すべしこれ第一にして大なる誠なり第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛す可しと然らば則ち父なる神を愛すると共に同胞兄弟姉妹を愛するは天父が我儕に求め玉ふ旨なり我儕力のあらん限り是の誠を守りて天父の聖旨を行はざる可らず
願みて我國四十万の同胞を觀るに貧窮困苦のもの鰥寡孤獨のもの到る所に克縮し罪惡を犯して道徳及び法律の罪人となるもの年々歳々増加し飲酒放蕩の爲財産を徒らに健康を害し徳性を破壊するもの又肉慾名利の奴隷となりて空しく生涯を送るもの又甚だ多し嗚呼神を愛する人よ立てよ我國同胞四十万の人々を救ふ爲に至聖全身を盡されよ是れ天父が我儕に切に求め玉ふ旨なり

博愛社の主意書

小橋勝之助

當今我國の狀態を觀察するに外面には太平無事に
して益々文化に進むか如しと雖ども心を潜めて其
内面を觀る時は道徳腐敗し風俗頹廢し貧民は日に
月に増加し罪因は年々増加し飲酒放蕩の爲に其身
を毀するもの勝れて數ふ可らず是の儘にして之れ
か改良を圖らざる時は我國の前途眞に憂ふ可きな
り余は不肯と雖ども聊か茲に見る所あり同志相圖
結して博愛社を組織し協心協力博愛慈善の事業を
企てて貧民を救済し實力に乏しき青年を教育し
放蕩生を感化し孤兒を養育する方法を講究せん
とす

博愛社の後來起さんとする事業は第一に文庫を設
けるなり文庫なるものは宗教教育衛生勸業上の書
籍を集め之を生徒に貸與し又世間有志の人に無料

二

三

大阪児童福祉の先駆

博愛社の 史的研究



●編——室田保夫・今井小の実・高岡裕之・蜂谷俊隆・倉持史朗

●執筆——室田保夫・大月英雄・水上妙子・高市勢津子・原佳央理
倉持史朗・片岡優子・今井小の実・蜂谷俊隆・高岡裕之

竹林徑一・大野定利・元村智明・大森万理子・チエン・リーメイ

●体裁——A5判／上製／総480ページ

●推薦——金子光一（東洋大学教授）

●揃定価——定価5,000円＋税 ISBN978-4-86617-227-9

復刻版

博愛雑誌 全1巻



●原本発行——博愛社（小橋勝之助）

●体裁——第1号～第20号（1890年5月～1891年12月）

●解説——室田保夫

●体裁——A5判／上製／総304ページ

●揃定価——定価10,000円＋税 ISBN978-4-86617-228-6



1933（昭和8）年以前 博愛社全景
（現在の大阪市淀川区十三）



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-28 電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <https://rikka-press.jp>